【総括表】

用途	庁舎等

1　対象施設

本個別施設計画での対象施設は、次に示す施設とする。

	施設名	所在地	基本的な方針	摘要
1	本庁舎	西町ほか	大規模修繕	
2	市役所立体駐車場	神田町	現状維持	
3	藤岡支所	藤岡飯野町	現状維持	
4	下山支所	大沼町	大規模修繕	
5	小原支所	小原町	現状維持	
6	旭支所	小渡町	現状維持	
7	足助支所	足助町	現状維持	
8	稲武支所	稲武町	大規模修繕	
9	旭支所倉庫	島崎町	現状維持	
10	元城庁舎	元城町	現状維持	

2　計画期間

2021 年度から 2026 年度までの 6 年間とする。

3　目標使用年数

原則、目標使用年数は 57 年以上とする。

4　対策の優先順位の考え方

対策の実施にあたっては、施設の劣化状況や点検・診断結果等を踏まえ、財政負担の平準化等も考慮しながら、計画的に行うものとする。

【個別表】

1	施設名	本庁舎

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	西町	延床面積	67,320.89 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積(㎡)	階数	備考
南庁舎	S 造	1999	26,292.00	地上 8 階 地下 2 階	
西庁舎（1F~4F）	RC 造	1971	10,394.69	地上 8 階 地下 1 階	
西庁舎（5F~8F）	SRC 造	1980			
東庁舎	S 造	2012	24,207.25	地上 8 階 地下 2 階	
環境センター	RC 造	1984	2,059.64	地上 5 階 地下 1 階	
衛生試験所	RC 造	2002	1,978.70	3 階	
職員会館	RC 造	1978	1,779.82	3 階	
上記付属棟	—	—	608.79	—	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
目標使用年数５７年以上を目指し、延命化実行計画（長寿命化計画）に基づき屋根・外壁、指定設備について計画的に予防保全を実施している。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
① 利用者の安全・安心を確保した上で、人口動向の変化など時代とともに変化する社会ニーズや行政機能の維持に確実に対応するため、必要な対策を適切な時期に効率的・効果的に実施する。 ② 予防保全型の維持管理を推進し、損傷が軽微な早期段階で安全性や経済性を踏まえた修繕等を実施することで機能の保持・回復を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。 ☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

①建築基準法による法定点検を実施する。
②点検・診断等により、危険個所が発見された場合は、他の関連箇所についても早急に点検を実施し、事故の未然防止に努める。
③修繕履歴台帳による情報を集約・一元化し、修繕計画等へ反映する。
④建物の耐久性の面から危険性が高いと思われる施設については、施設更新等を検討する。

☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進

①将来需要などを想定しながら、機能縮減、機能転用などを検討していく。
②施設における利用ニーズを踏まえ、施設利用の未利用部分を有効活用し歳入確保を図る。

☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

①民間事業者が保有する幅広いノウハウや経験を効率的に施設管理等に活用し、管理業務品質の向上、運営コストの最適化を図る。
②業務委託業者との連携や情報交流を密に行い、運営維持に関する不具合や問題点を把握し、改善課題を的確に顕著化させることで適切な改善方針の立案を図る。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

①材料の耐用年数に応じた修繕サイクルによる予防保全を進めるほか、耐久性が高い材料の採用や省エネ機器への更新などＬＣＣの削減を検討していく。
②構造体の残存年数を踏まえ、経年劣化による修繕に加えて社会的な要求等を満たす改修を行い、長寿命化を図る。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

2	施設名	市役所立体駐車場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	神田町	延床面積	6,307.49 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
市役所立体駐車場	S 造	2004	6,307.49	4 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
目標使用年数５７年以上を目指し、延命化実行計画（長寿命化計画）に基づき屋根・外壁、指定設備について計画的に予防保全を実施している。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
① 利用者の安全・安心を確保した上で、人口動向の変化など時代とともに変化する社会ニーズや行政機能の維持に確実に対応するため、必要な対策を適切な時期に効率的・効果的に実施する。 ② 予防保全型の維持管理を推進し、損傷が軽微な早期段階で安全性や経済性を踏まえた修繕等を実施することで機能の保持・回復を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
①建築基準法による法定点検を実施する。 ②点検・診断等により、危険個所が発見された場合は、他の関連箇所についても早急に点検を実施し、事故の未然防止に努める。 ③修繕履歴台帳による情報を集約・一元化し、修繕計画等へ反映する。 ④建物の耐久性の面から危険性が高いと思われる施設については、施設更新等を検討する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
①将来需要などを想定しながら、機能縮減、機能転用などを検討していく。 ②施設における利用ニーズを踏まえ、施設利用の未利用部分を有効活用し歳入確保を図る。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	① 民間事業者が保有する幅広いノウハウや経験を効率的に施設管理等に活用し、管理業務品質の向上、運営コストの最適化を図る。 ②業務委託業者との連携や情報交流を密に行い、運営維持に関する不具合や問題点を把握し、改善課題を的確に顕著化させることで適切な改善方針の立案を図る。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減	
	①材料の耐用年数に応じた修繕サイクルによる予防保全を進めるほか、耐久性が高い材料の採用や省エネ機器への更新などＬＣＣの削減を検討していく。 ②構造体の残存年数を踏まえ、経年劣化による修繕に加えて社会的な要求等を満たす改修を行い、長寿命化を図る。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

3	施設名	藤岡支所

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	藤岡飯野町	延床面積	2,640.57 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
藤岡支所	SRC 造	2019	2,640.57	2 階	共用部分 1,118.89 ㎡ 交流館部分 890.43 ㎡
ゴミ保管庫	CB 造	2019	19.84	1 階	
倉庫（藤岡交番隣）	S 造	1980	134.00	1 階	
倉庫（下貝戸地内）	S 造	1982	24.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
藤岡支所庁舎、ゴミ保管庫は完成（２０１９年３月）直後のため、全般的に劣化・損傷は認められない。倉庫（藤岡交番隣）は、建築後３９年が経過し、一部劣化・損傷箇所が認められ、２０２１年度に修繕を予定している。倉庫（下貝戸）は建築後３７年が経過しているが、目立った損傷や老朽箇所はない。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進

	□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	費用対効果を踏まえた上で、利用者ニーズに応じて必要な改修に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

4	施設名	下山支所

1　施設の概要

所在地	大沼町	延床面積	4,042.88 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
支所	RC 造	1986	3,026.58	3 階	
車庫	S 造	1985	604.34	2 階	
第２ガレージ	S 造	1993	195.96	1 階	
第３ガレージ	S 造	1997	216.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は一部の棟では築後３６年が経過している。２００７～２０１３年度に一部屋根外壁延命化修繕工事が行われているが、修繕工事を行っていない部位を中心として劣化が進みつつある。シート防水が劣化しているため、経過観察をしながら防水改修の時期についても検討していく必要がある。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
支所２階議場や会議室等が未利用スペースとなっているため、用途変更等により利用を促進する。

	☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
	上記未利用スペースを、民間活力の導入も視野に入れて利用を促進する。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
	誘導灯に点灯不良が確認されているため、ＬＥＤ化更新を実施することでランニングコストの縮減を図る。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	
外壁で塗装劣化によるモルタルの浮きがある。	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

5	施設名	小原支所

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	小原町	延床面積	2,590.71 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
支所	RC 造	1977	1932.47	3 階	
車庫 1	S 造	1977	363.75	1 階	
車庫 2	S 造	1981	90.75	1 階	
車庫 3	S 造	1988	49.88	1 階	
防災倉庫	S 造	1986	112.56	2 階	
自転車置場	S 造	2007	9.80	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は一部の棟では築後４４年が経過している。２０１０～２０１３年度に一部屋根外壁延命化修繕工事が行われているが、修繕工事を行っていない部位を中心として劣化が進みつつある。シート防水が劣化しているため、経過観察をしながら防水改修の時期についても検討していく必要がある。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な方針
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。

☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進	
	車庫１の一部において、消防総務課による消防団第６方面隊４分団１部の計画が、現在、進められている。
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善	
	特になし。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減	
	・ＬＥＤ化更新を実施することでランニングコストの縮減を図る。 ・現在照明器具取替え時には、LED 化更新を行っている。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	
・防災倉庫の天井断熱材の劣化が著しい。 ・排水管の老朽化による排水漏れや排水管の詰まりがある。	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

6	施設名	旭支所

1　施設の概要

所在地	小渡町	延床面積	1,860.27 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
支所	RC 造	1970	1,860.27	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は築後５１年が経過しているが、２０１１，２０１９年度に屋根外壁延命化修繕工事が行われており、健全な状態を保っている。各部位の劣化状況も軽度であり、引き続き経過観察しながらの使用で問題ないと思われる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な方針
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
特になし。
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
特になし。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
施設の一部でＬＥＤ化更新（Ｈ３０年度に庁舎２階、令和２年度に１階）を実施し済。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項
同一敷地内に交流館(別棟)あり。

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

7	施設名	足助支所

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	足助町	延床面積	3,103.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
本館	RC 造	1959	1,091.98	2 階	
支所（東庁舎）	S 造	1980	660.39	2 階	
通路会議室	S 造	1980	36.41	1 階	
北館	S 造	1992	532.18	2 階	
情報ネットワークセンター	S 造	1999	242.62	2 階	
自転車置場	S 造	1992	37.66	1 階	
北庁舎	RC 造	1973	498.77	2 階	
支所前駐車場料金所	W 造	2003	2.70	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本館は、建築後６０年が経過し、経年による老朽化が著しい。また、山村地域の中心支所であること、さらに観光地を擁するため来庁者が非常に多く、浄化槽等衛生設備の摩耗が著しい。 平成３０年に本館空調機器とキュービクルの更新を行った。また、必要に応じて修繕等を実施してきた。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。 ☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

	各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。 点検結果、耐用年数を踏まえた適正な修繕により安全性を確保する。 また、公共下水道への接続を令和３年度に実施する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進	
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善	
	（現在の導入状況） 導入していない。 （今後の考え） 現在の施設を利用する間は、従来の維持管理方法を継続する。その中で、既存設備の更新時に省エネルギー化が可能な設備への取替を行い、光熱水費の削減を図るなどの運営改善に努める。 建替え計画策定に併せて、PPP 等の導入を積極的に検討し、効率的かつ効果的な施設運営に努めるとともに、コスト縮減を図る。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減	
	建築年次が古いため、ユニバーサルデザイン・バリアフリー化への対応や利用者ニーズに応じた改修などには限界がある。改善にあたり制約は多いが、できることは鋭意実行していく。 老朽化して高額な維持管理費を要する合併浄化槽を撤去して、公共下水道への接続を行う。また、設備の更新にあたっては、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新し、維持管理を含めた費用（ランニングコスト）の縮減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	
建築年次の異なる建築物が混在しているうえ、本館は増改築を繰り返しており、関係図面等が完全に保管されていない。そのため、修繕、機能向上工事施工に支障をきたすことが多い。また、建築年次の古い建築物は、バリアフリー化、機能向上にも制約が多く、可能な範囲での対応とせざるを得ない。	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

8	施設名	稲武支所

1　施設の概要

所在地	稲武町	延床面積	2,548.72 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
支所	RC 造	1982	2,087.38	2 階	
公用車車庫	S 造	1982	166.09	1 階	
自転車置場	S 造	1982	22.05	1 階	
倉庫（車庫前倉庫）	S 造	1982	31.20	1 階	
防災倉庫	S 造	1983	100.00	1 階	
倉庫（セト田倉庫）	S 造	1972	133.00	1 階	
ブロアー室	RC 造	1982	9.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は築後３９年(セト田倉庫は４９年)が経過しているが、２００７～２００９年度に一部屋根外壁延命化修繕工事が行われており、概ね健全な状態を保っている。部分的に外壁タイルの浮きがあるため、経過観察をしながら補修の時期についても検討していく必要がある。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な方針
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、3 施設の有効活用の促進の 3 つを柱とした取り組みを総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。 ☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保 予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。

	☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
	指定管理業者（豊田市文化振興財団）による建物管理を行っており、支所内の余剰空間を、指定管理業者の貸部屋として貸出していて、今後も利便性の向上を図り、施設の有効活用に努める。
	☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
	上記と同じ。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
	ＬＥＤ化更新を実施することでランニングコストの縮減を図る。 支所１階ロビーの照明は LED 化更新済み。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

9	施設名	旭支所倉庫

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	島崎町	延床面積	460.75 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
倉庫	S 造	1984	460.75	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
鉄骨造で建築後３５年経過ではあるが、２００５年に浸水害の経歴があり、経年に伴う腐食劣化が著しい。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
・指定管理者と連携した各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。 ・点検結果、耐用年数を踏まえた適正な修繕により安全性を確保する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

	・高齢者の多い地域性を踏まえたユニバーサルデザイン・バリアフリー化への対応や指定管理者との意見交換を基にした利用者ニーズに応じた機能改修など、施設としての利便性向上に努める。 ・設備の更新にあたっては、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく、維持管理を含めた費用（ランニングコスト）の縮減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	
・倉庫ではあるが、他課又は地域の団体等に区画の利用提供を（リサイクルステーションを含む）行っていることから、機能維持の管理は適正に行う必要がある。 ・電源の供給は、隣接する旭総合体育館のキュービクルから供給されている。 ・建屋の一部（1 階部）が土地のブロック積擁壁を兼ねているため、構造に注意する	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

10	施設名	元城庁舎

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	元城町	延床面積	3,350.37 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
元城庁舎	S 造	1997、2003	3,350.37	5 階、3 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
延命化実行計画（長寿命化計画）対象外、土地は借地のため賃貸借期間を踏まえて原則、修繕を停止しており、屋根・外壁、指定設備についての予防保全は未実施。

3　対策内容と実施時期

（1）基本的な考え方
残存使用年数（賃貸借期間）と修繕コストによる経済的耐用年数を踏まえた事後保全型の維持管理を推進する。※安全性、法令に関する修繕は対象外。
（2）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：1）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
点検・診断等により、危険個所が発見された場合は、他の関連箇所についても早急に点検を実施し、事故の未然防止に努める。
☑：2）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
施設における利用ニーズを踏まえ、施設利用の未利用部分の活用を図る。
□：3）民間活力の導入による事業推進や運営改善
□：4）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
（3）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。